

【異幅柱接合部工法の概要】

異幅柱接合部工法（図-2）は、建物をより低コストで合理的に設計するために、角形鋼管の「異幅柱接合形式」の径差が大きい場合でも適用できることを目的として開発した技術です。

異幅柱接合部工法の設計法を用いて、通しダイアフラムが上階柱に先行して破壊しない板厚となるように調整することで、上階柱と接合部パネル及び下階柱の径差を 150mm 以下まで適用可能にします。また、接合部パネル及び下階柱の大きさは、300mm 以上 800mm 以下まで対応可能です。

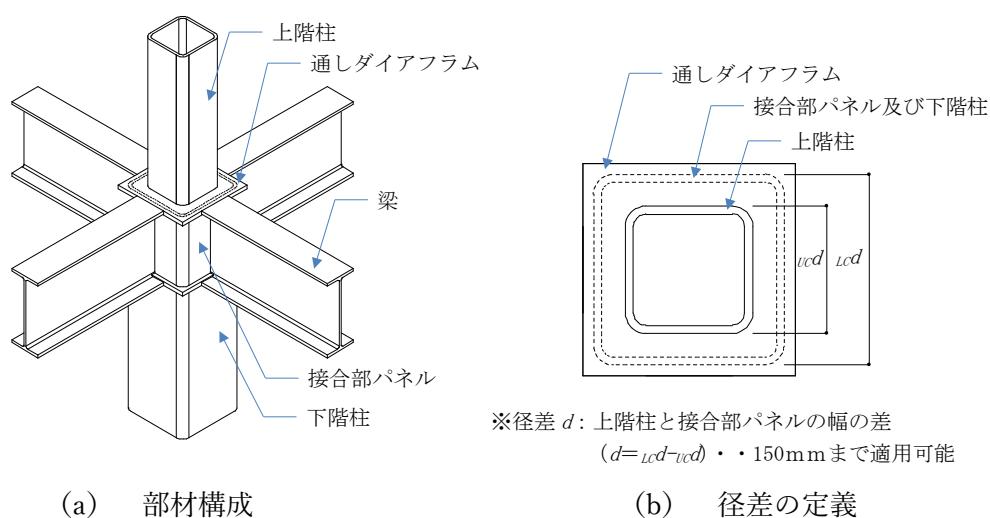


図-2 異幅柱接合部工法の概要

【在来工法とのコスト比較】

異幅柱接合部工法を適用した場合、在来工法（テーパ管形式）と比較して、柱梁接合部 1 か所当たり 10 万円程度のコスト低減効果が期待できます。

【今後の展開】

今後、参加会社各社において、オフィスビル、商業施設および物流倉庫等の建物の中間階や最上階に異幅柱接合部工法を積極的に採用し、普及展開を図ってまいります。

以上

～本リリースに関するお問合せ先～
北野建設株式会社 長野本社
広報担当 和田 TEL：026-233-5111

～本工法に関するお問合せ先～
北野建設株式会社 東京本社
設計部 兼 品質管理部 依田 TEL：03-3562-7353